

## 令和2年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(潟上市)

### 1 市の概要(人口 32,282 人)※令和3年1月1日現在

| 就学前教育・保育施設数、小学校数(令和2年4月1日現在) |                   |                 |     |                   |                 |     |
|------------------------------|-------------------|-----------------|-----|-------------------|-----------------|-----|
| 幼稚園                          | うち、幼稚園型<br>認定こども園 | 幼保連携型<br>認定こども園 | 保育所 | うち、保育所型<br>認定こども園 | 地方裁量型<br>認定こども園 | 小学校 |
| 2園                           | 1園                | 3園              | 3か所 | 0園                | 0園              | 6校  |

その他：事業所内保育施設1か所、認可外保育施設4か所(内企業主導型2か所)

### 2 教育・保育の現状と課題

| 市の教育・保育の課題  |
|---|
| <p>(1) 各園の形態や地域性をいかした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導体制の構築が必要である。</p> <p>(2) 市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向けての具体的な取組には差が見られる。</p> <p>(3) 就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。</p> |

### 3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

| 目的(3年間)  |
|--|
| <p>幼児教育アドバイザーによる各施設の教育・保育課題の解決のための助言指導を充実させ、各園の研修リーダーの養成と職員の資質向上に取り組む。</p> <p>公開保育研究会に市内小学校からの参加を呼びかけ広域的に学び合う体制を構築するとともに、小学校への円滑な接続に向けて園を支援する基盤づくりを図る。</p>   |
| 主な内容(3年間)＜成果○と今後の課題●と◇改善の方策＞   |
| <p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実<br/>教育委員会幼児教育課へ幼児教育アドバイザーを配置する。学校教育課と連携し、円滑な就学に向けた事業を実施する。</p> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援<br/>市内就学前施設への訪問指導及び保育者との個別面談による課題の把握と解決のための支援を行う。</p> <p>(3) 専門性の向上のための研修の充実<br/>各施設の課題に対する研修と公開保育研究会を実施し、研修リーダーの育成と広域的に学び合う体制を構築する。</p> <p>(4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実<br/>各小学校区での相互職場体験、各校施設間の情報交換、合同研修会を実施する。</p> <p>(5) 県との連携体制の確保<br/>県幼児教育推進協議会及びアドバイザー連絡協議会への参加と市幼児教育アドバイザー育成のための県指導主事及び県アドバイザーの訪問による指導の支援。</p> |

| 年度別重点 |   |
|-------|---|
| 令和元年度 | 各就学前施設の課題解決に向けた支援の充実と研修の実施による専門性の向上を図る。                         |
| 令和2年度 | モデル園を核とした公開保育研究会の実施を継続し、地域全体で学び合う体制を構築することで、市内全体の教育・保育の質の向上を図る。 |
| 令和3年度 | 小学校への円滑な就学に向けた研修会等を実施し幼保小接続に対する支援体制の整備を図る。                      |

わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業 事業の概要(潟上市)

4 令和2年度の具体

| 目的   |
|--|
| 市内施設の教育・保育の質の向上につなげるため、モデル園を核とした保育実践研究や公開保育研究会に加え全ての公立施設で公開保育を開催し、施設の種別や保育提供区域の枠を超え市全域で学び合う体制の構築を図る。 |

実施内容及び実施状況(中間)

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

学校教育課指導主事と幼児教育課の連携体制による訪問指導及び研修会等事業を実施する。

①配慮が必要な児童に対する幼児通級教室

学校教育課教育支援アドバイザーによる園への支援

訪問指導園 5園

対象児童 12名

○発達に課題等をもつ児童に対し個別指導を行うことで、児童の安定した発達と就学に対する保護者の不安軽減を図るとともに、必要に応じ園担当者と情報交換を行い保育の改善につなげている。

②円滑な就学のための意見交換会

開催日 令和3年1月15日

場 所 市役所会議室

参加者 学校教育課、幼児教育課、  
幼児教育アドバイザー、  
市内就学前施設主任 計10名



○各校から寄せられている声及び相互職場体験での小学校の指導の仕方や児童の姿を報告し合い、円滑な就学に向けて今後の園生活の在り方及び保育者の関わり方について見直すきっかけとなった。

○各園における遊びの中での学びが、就学後はどのようにつながっているのか、また、学びの展開に対する保育者の関わりについて意見を交換したことで、来年度のカリキュラム作成の手立てとなった。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和2年度アドバイザーによる巡回訪問実績(潟上市)

| ⑥訪問実績 計 14施設/全19施設 149回 |  |
|-------------------------|--|
| 回数                      | ・幼稚園：公立1園(19回)                         |
| 数                       | ・保育所：公立3園(56回)                         |
|                         | ・幼保連携型認定こども園：公立3園(65回)                 |
|                         | ・幼稚園型認定こども園：私立1園(3回)                   |
|                         | ・その他の施設：認可外保育施設1か所(1回)、事業所内保育施設2か所(2回) |
|                         | 企業主導型保育所2か所(2回)                        |

|      |   |
|------|---|
|      | ・小学校：0校（0回）   |
| 訪問内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、7園（52回））</li> <li>・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、7園（13回））</li> <li>・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、7園（87回））</li> <li>・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（12回））</li> <li>・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、13園（21回））</li> <li>・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（11回））</li> <li>・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、1校（5回））</li> </ul> |
| 理由   | 令和元年度に基幹園として1園で公開保育研究会を実施したが、参加しやすい環境を整えるため、全ての市立施設において公開保育を実施するものとして設定した。また、幼小小接続に係る市の事業への主体的な関わりを持つため全小学校及び全園で事業実施に訪問することとし設定した。  |

- 園内研修等では、課題の検証に主体的に向き合う参加者の姿が多く見られ、積極的な発言など研修への参加意欲が高くなっている。
- 園訪問では、資格の有無にかかわらず保育の振り返りや個々の保育に向かう姿勢等、思いにふれることができた。その中で、一人一人の子どもを大切に思う保育者の関わりや抱えている不安などについて率直に意見交換したことが、自己肯定感に繋がっていき、保育者自身も子どもと一緒に育てていく一人であるという意識に変わってきていることを感じた。
- 短時間任用保育士やみなし保育士などの職員が園内研修に参加することにより、「子どもの姿」への気付きから「子どもの内面」の気付きへと変化していっているように感じる。園の特色をいかした”園全体で子どもを育てる”といった意識を育てていけるよう、関わりを続けた。
- 園によっては、園内研究に関われない職種もあり、アドバイザーの関わりにより保育に対する意識が変わってきているものの、研究内容をどう伝達し意識の統一を図っていくかが課題になっている。
- 園内研修では、子どもの読み取りについて話し合いを深めテーマや視点に迫るところまでたどり着くことの難しさが課題である。

**(3)「専門性の向上のための研修の充実」**

市内全公立施設での公開保育研究会による広域的に学び合う体制を構築し、市内全体の教育・保育の質の向上を図る。

①公開保育 ※（ ）内参加人数

7/21 出戸こども園（21人）、7/22 追分保育園（18人）8/5 昭和こども園（16人）、9/14 二田保育園（14人）、11/10 湖岸保育園（17人）

②公開保育研究会

開催日 令和2年11月6日  
 公開保育 若竹幼児教育センター  
 研究協議 飯田川公民館  
 参加者 市内就学前施設職員12人、  
 行政8人 合計20人



若竹幼児教育センター公開保育研究会 研究協議

- 日頃、研修参加の機会が少ない保育者に対し、他施設の保育を参観することで様々な学びや気付きに繋がるような公開保育を実施した。「保育者の関わり」や「環境構成」などについて、参加者からは「自身の保育や自園の保育を見直すよい機会となり明日の保育を考える手立てになった」という感想が多く寄せられた。各施設への訪問の際には、他施設の遊びや手作りおも

ちやを紹介したりし、園相互の交流も勧めてきた。

- 公開保育では、コロナ禍ということもあり様々な配慮が必要となったが、公開保育実施園の事情により時間や人数で制限を設ける必要があった。
- ◇コロナ禍にあってもより充実した研修にするため、保育参観後の協議の場を設け広域的に学び合いを共有できる機会を提供する。

### ③実践研究

安全に遊ぶための園児の体力向上事業 モデル園 昭和こども園

- ・人間工学の専門分野の教授による講話とカリキュラムの指導 2回 (6/17、6/26)
- ・健康運動指導士による教育・保育環境の見直しへの助言  
6回 (6/19、8/31、9/29、11/30、12/21、1/29)
- ・事業の中間評価及び成果を園児の保護者へ発信 3回 (9月、12月、3月)
- 「未満児は、転倒による怪我が減少し体を動かして遊ぶことを楽しむ姿が増えた。以上児は、衝突や転倒による怪我を回避できるようになってきた。また、年下の子どもに優しく接する姿が見られるようになった。様々なことに挑戦したいという姿が多く見られる。」という声があり、10の姿の「心と体」が一緒に育っていることを感じられる。
- 保育者は、安全に遊ぶために子どもの発達時期にあった用具や教材の活用を深く考えるようになった。

### ④保育実践研修会

「チーム力を高める保育実践のあり方について ～一人一人の保育者のよさをいかして～」

開催日 令和2年11月2日 2回実施

場所 市役所会議室

参加者 市内就学前施設全職種対象 30名参加

- 「自分の立場に迷いを持ちながら保育に関わっている」というみなし保育士及び短時間任用職員などの参加者からは、「チームとして互いを尊重し、連携することの大事さが分かった」という感想が寄せられた。



保育実践研修会

- ◇職種を超えて「チームで保育に関わる大切さ」を周知する機会を継続していく。

## (4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

### ①基幹園による公開保育研究会

若竹幼児教育センター 11/6 開催 接続する小学校から教諭2名参加

- 学校側から公開保育への参加はあるが、その後の協議への参加には至らなかった。
- ◇小学校側と開催日時を検討し資料の事前配付を行うほか、管理職への参加を呼びかける。

### ②幼保小相互職場体験

天王小学校区 (12/8、1/7)、出戸小学校区 (9/24、10/13)、東湖小学校区 (10/7、10/13)

追分小学校区 (9/18、10/13)、大豊小学校区 (9/29、10/12)、飯田川小学校区 (10/12、11/13)

- 各園の保育教諭は、小学校の授業に参加することで授業における教師の手立てや学級経営の工夫について理解を深めることができた。
- また、小学校教諭は、園の教育及び保育に参加し環境設定や園児一人一人への細やかな気配り、豊かな活動や時間の保障などについて理解を深めることができ、お互いの連携推進につながっている。
- ◇来年度は、全学区の相互職場体験及び協議に幼児教育アドバイザーが加わり、より具体的な内容の共有を図ることで、円滑な接続に向けた教育保育内容の改善につなげる。

## (5) 「県との連携体制の充実」

- ・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加及び県アドバイザーの訪問指導により

|   |
|---|
| <p>市幼児教育アドバイザーの育成支援を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市就学前施設要請訪問の同行により県の指導内容を共通理解し、市アドバイザーによる訪問指導の充実を図る。</li> </ul> <p>①園の要請訪問に同行<br/>7/17 出戸こども園、7/22 追分保育園、8/5 昭和こども園、9/1 二田保育園、10/8 若竹幼児教育センター、11/10 湖岸保育園、11/8 追分幼稚園</p> <p>○市アドバイザーが、県幼保推進課による要請訪問の同行によりねらいに沿った視点の当て方を学び実践に生かすことを心がけている。</p> <p>②県アドバイザーの支援訪問<br/>訪問日 6/1、6/11、7/8、8/27、9/24、10/8、10/27、11/6、12/10、1/14</p> <p>○県アドバイザーの同行訪問を通して保育者への関わり方や具体的なアドバイスの仕方を学ぶことが市アドバイザーの巡回訪問・指導を行う際のモチベーションアップにつながっている。</p> <p>③市アドバイザーに学ぶ研修会<br/>○他市のアドバイザーの関わり方を学び、また情報交換をすることによって、専門性の向上につながっていく良い機会となった。</p> <p>●今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、参加回数・参加人数が制限されたため次年度に期待したい。</p> |
|---|

## 5 令和3年度の事業の構想

|   |
|---|
| <p>目的</p>   |
| <p>小学校への円滑な就学に向けた合同研修会等を実施し幼保小接続に対する支援体制の整備を図る。</p>   |
| <p>実施内容</p>   |
| <p>(1) 学校教育課との教育・保育推進体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学教教育課と幼児教育課による訪問指導及び研修会等の開催。</li> <li>②幼児通級教室の実施 実施園及び対象児童 未定</li> </ul> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる園への支援<br/>幼児教育アドバイザーによる市内全就学前施設への訪問指導及び研修リーダーを育成する。<br/>幼稚園：公立1園（5回）<br/>保育所：公立3園（24回）<br/>幼保連携型認定こども園：公立3園（36回）<br/>幼稚園型認定こども園：私立1園（5回）<br/>小規模保育所2か所（6回）<br/>認可外保育施設1か所（1回）<br/>事業所内保育施設2か所（5回）<br/>企業主導型保育所2か所（5回）</p> <p>(3) 専門性向上のための研修の充実<br/>環境構成や指導方法などについて共通理解し、地域や施設の枠を超えて市全域における教育及び保育の質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①公開保育研究会 公立7園、私立1園 計8園</li> <li>②保育実践研修会             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「未満児保育の大切さ」について 5月開催予定</li> <li>・「記録の大切さ」について 11月開催予定</li> </ul> </li> <li>③保育実践研究 モデル園 追分保育園</li> </ul> |

(4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修の充実

教育・保育課程等の相互理解を図り連携を推進する。

①相互職場体験及び児童交流並びに協議の実施 全6学区 実施日未定

②幼保小合同研修会 開催日時未定

(5) 県との連携体制の活用

市就学前施設要請訪問等の同行により県の指導内容を共通理解し、市アドバイザーによる訪問指導の充実を図る。

①就学前教育推進協議会への参加

②アドバイザー連絡協議会への参加

③県アドバイザーの訪問指導（8回）